

○建築課長（永利啓次君） 今、田中委員がおっしゃっていたのは多分空き家バンクのことだと思いますけど、筑紫野市空き家等対策計画をまず作成させていただきたいと思います。その中で、今言った特定空き家ということで解体しなくちゃいけない分は、どういうふうに情報を発信して、今言った税の関係とかもありますけど、それで一応更地にしてもらおうかというお話を、この計画でうたいます。

空き家バンクについても、利活用する部分がたくさんございますので、その点についても、どういうふうな流れで、今言われました、間に不動産を入れたりするのか、直接うちのほうですのか、いろいろ他市町村異なっておりますので、参考にしながら空き家対策計画を作成していきたいと思います。その中で、ある程度お示しすることができるかと思えます。

○委員長（下成正一君） 田中委員、よろしいですか。

○委員（田中 允君） 状況を見守ります。

○委員長（下成正一君） ほかに質疑のある方はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（下成正一君） 質疑を打ち切ります。ありがとうございました。

しばらく休憩いたします。職員入れかえのため休憩します。

---

休憩 午後 1 時 52 分

再開 午後 1 時 56 分

---

○委員長（下成正一君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

所管事務報告に入ります。

まず、出席職員の紹介をしていただいた上で、所管事務報告、県営高尾川・県営鷺田川改修事業の進捗について報告をお願いします。

部長。

○建設部長（熊手寛明君） 続きまして、河川課が担当しております所管事務報告、県営高尾川・県営鷺田川改修事業の進捗についてを説明させていただきます。

この件につきまして、説明のために出席している職員を紹介いたします。

河川課長の東原です。

○河川課長（東原一広君） 東原です。よろしくをお願いします。

○建設部長（熊手寛明君） 係長の松永です。

○河川担当係長（松永崇臣君） 松永です。よろしくお願いいたします。

○建設部長（熊手寛明君） 以上で説明しますので、よろしくお願いいたします。

○委員長（下成正一君） 課長。

○河川課長（東原一広君） それでは、県営高尾川・県営鷲田川改修事業の推進について。

1、高尾川地下河川水理模型実験視察の報告。昨年12月17日に茨城県つくば市にありますパシフィックコンサルタンツのつくば技術研究センターにおいて、期成会とともに地下河川の水理模型実験の視察をしました。水理模型実験は、高尾川の地下河川が所定の効果を発揮するための最適な施設形状を検討するために実施するもので、実際の水の流れを目視で確認することができます。今回の実験では、局所的な水理現象を観察するために、概略図にありますようにAの流入施設実験、Bの流出施設実験及びCの湾曲による影響把握実験の三つに分けて水理実験を実施しております。

地下河川はサイフォン構造の原理により流入と流出の水位差を利用して水が流れる仕組みになっています。Aの流入施設実験では、計画どおりの水量が高尾川から安定的に引き込むことができる施設形状を検討します。Bの流出施設実験では、安定的かつスムーズに河川に合流する施設形状を検討します。Cの湾曲による影響把握実験では、地下河川が高尾川の真下に整備することにより、川と同じように曲がった形になるため、曲がりによる水の流れの影響を把握します。

それぞれの模型の範囲についてですが、Aの流入施設模型は、西鉄紫駅前の県道にある紫橋から上流260メートルのところにある市道の紫橋までの区間を再現しています。Bの流出施設模型は、多々良橋付近から本町郵便局の横にできるバイパス河川を含む450メートルの区間と高尾川合流地点から歓喜橋までの220メートルの区間を再現しています。Cの湾曲把握模型は、場所により曲がり方が違うため、3種類の湾曲を再現しています。

こちらは大型模型全体の完成状況写真になります。模型は縮尺25分の1で制作されています。右上のピンク色の線で囲んでいるところが流入施設の模型で、全長は約10メートルになります。黄色い線で囲んでいるところが流出施設の模型で、全長は約18メートルになります。真ん中の膨らみが現在の西鉄二日市駅駐輪場になります。右に向かって二股に分かれています。本町郵便局の横に新しくできるバイパス河川を再現しています。これが湾曲部影響把握模型の完成状況写真になります。

これは流入施設の実験を視察している様子です。左側の写真中央の白い物体が流入施設になります。大雨により高尾川の水位が上がると流入施設に増水した水が引き込まれるようになっています。引き込まれた水は、透明の円柱状の形をした立坑にらせん状に水を落

として地下河川へ流れ込む仕組みになっています。実際の施設の大きさは流入施設の幅が約20メートル、立坑の直径が14メートルになります。流入施設にある4カ所の呑み口には格子状のフィルターが設置されており、地下河川に大きなごみが入らないようになっております。

これは湾曲部影響把握模型の実験をしている様子です。このように地下河川の曲がりを見せ再現しております。これは流出施設の実験を視察している様子です。左側の写真中央の白い物体が流出施設で、西鉄二日市駅駐輪場の横に整備される予定になっております。

地下河川に流れた水により立坑内が水で満たされ、流出施設から鷺田川へ放流される仕組みになっています。実際の施設の大きさは、流出施設の幅、立坑とも直径9メートルになります。

今回の施設で計画流量に相当する水を実際に流した結果、流入施設、流出施設ともに地下河川が想定どおりの効果を発揮していることを確認することができました。視察の後にも実験は繰り返され、その実験結果が地下河川的设计に反映されることとなります。

以上で高尾川の報告を終わります。

○委員長（下成正一君） ただいま執行部から報告を受けましたが、質疑のある方はありませんか。

○委員（田中 允君） 実際、上が流れよる、下から出てくる。上から出てくる力が強いのですよちゅうことやろう、下から上がってくる力……。

○委員長（下成正一君） 課長。

○河川課長（東原一広君） 先ほど図面にありましたように、上流側と下流側の西鉄駐輪場付近との高低差がありますので、その差をもって下に、流出部分から水が流れ出すというふうになります。

○委員（田中 允君） 上も流れよったいな。

○河川課長（東原一広君） 上も流れております。

○委員（田中 允君） 普通は、地下は使いよらん、流れんわけですか。流入口からやけんな。

○河川課長（東原一広君） はい。

○委員（田中 允君） それで、雨が降ったときに上からの水流があるよな、ずうっと。それでも飛び出して吹き出るということやろう。

○河川課長（東原一広君） そうです。

○委員長（下成正一君） 課長。

○河川課長（東原一広君） 上の河川側の、先ほど白い物体が見えましたけれども、あそこの高さが決まっております、それ以上、下の河川に水が入らないようにすれば、昨年のように大雨になりますと浸水しますので、そのラインからのもって、今度は地下河川を流していくというふうになります。ですので、上の河川からは昨年の……。

○委員（田中 允君） だから、大雨のときは上と下と両方流れよるわけやろう。

○河川課長（東原一広君） 両方流れます、はい。

○委員（田中 允君） だから、上が流れよるところの水流があるったいね、勢いがな。でも、それでも下からサイフォンで出てきますよちゅうことやろう。

○河川課長（東原一広君） そうです。

○委員長（下成正一君） それから、毎秒60トンとおっしゃってましたね。大雨が降ったときはどれぐらいの水量があるんですかね、上に60トン流したらもう大丈夫ということですか。

○河川課長（東原一広君） 大雨というのは8.22の大雨でよろしいですか。大体45トンと言われております。今回の計画が上の高尾川が30トン、下のトンネルが30トンで60なので、満足しますよという計画になっております。

○委員長（下成正一君） 45トン。

○河川課長（東原一広君） はい。

○委員長（下成正一君） 山本委員。

○委員（山本加奈子君） 今、聞いて物すごく安心したんですけど、模型もうまくいってですね。このことと関係ないというか、これが終わった後、水道橋の架け橋とかがいつから始まるのかを聞いてきてと言われているんですけども、聞いても大丈夫ですか。済みません、実際、今からの計画です。

○委員長（下成正一君） 課長。

○河川課長（東原一広君） いつからというのはまだはっきり県のほうが示していないんですけども、今現在、現場の調査をしております。調査の内容が、用地の調査、建物調査、もう一つが水道橋付近にある道路の地下に埋設されてある上下水道、ガス、NTTなどの地下埋設物の調査、それから各個人が上水道ではなく井戸を掘ってあるところがありますので、そこの井戸の水質、水量、いわゆる井戸の調査をしております。それから、それを集めたもので水道橋の詳細設計が完了するようになります。

今、県が言っているのは、梅雨が明けたら着手できるような段階ではあるかなということっております。まだはっきりと何月からというのはありませんけれども。今のつく

ばでの実験をもとに、まだ湾曲している部分とか幾らか、水道橋付近は堤防も少し高くなりますので、微調整の実験をまだやっているところでもありますから、詳細設計ができれば、水道橋の工事に着手できるかと思われます。

○委員（山本加奈子君） わかりました。

○委員長（下成正一君） よろしいですか。ということは、28年の事業でやるということですね。

○河川課長（東原一広君） そうですね。28年度での予定です。

○委員長（下成正一君） ほかに質疑ありませんか。平嶋副委員長。

○副委員長（平嶋正一君） 済みません、画面を一番最初に戻してくれませんか。今回、視察に行かれたのが、つくば市のパシフィックコンサルタンツつくば技術研究センターと書いてあるんですけども、僕は公共の施設で実験してあるのかなと思ったら、そこで、土木設計でしょう、パシフィックコンサルタンツ。

○河川課長（東原一広君） はい。コンサルタントでございます。

○副委員長（平嶋正一君） ということは、今後もこれは県がやっているんですけども、土木設計は、そこになっていくと決まっているんですか。

○委員長（下成正一君） 課長。

○河川課長（東原一広君） いや、たまたま、ここのパシフィックコンサルタンツというところが落札しまして、つくばのほうにそういった……。

○副委員長（平嶋正一君） わかりました。模型の入札で落札したということですね。

○河川課長（東原一広君） はい。そこの業者が、たまたまつくばであったと。

○副委員長（平嶋正一君） わかりました。

○委員長（下成正一君） いいですか。ほかに質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（下成正一君） 質疑を打ち切ります。

これで本日の議事は全て終了いたしました。これをもちまして建設環境常任委員会を閉会いたします。ありがとうございました。

---

閉会 午後2時08分